



星野暁 / Satoru Hoshino, *山水気ドローイング1 / Sansuiki drawing 1*, 2019,
韓紙に泥入り墨描 / Calligraphic ink with slip clay on Korean paper, H84×W52 cm
星野暁 / Satoru Hoshino, *山水気1 / Sansuiki 1*, 2019,
黒土施釉陶 / Black clay with glaze, H34×W61×D25 cm

星野 暁

山水気－身体と自然

2020年1月11日(土) - 2月8日(土)

オープニングレセプション：1月11日(土) 4:30 - 6:00pm

現代美術 艸居

京都市東山区古門前通大和太路東入ル元町 381-2

開廊時間：10:00-6:00PM 定休日：日・月



プレスリリース

“今回の個展のタイトルは「山(さん)水気(すいき)―身体と自然」とした。山水気は山気(さんき)、水気(すいき)をつないだ造語である。山気とは山の冷え冷えとした空気、水気も湿ったりとした空気の漢語的表現である。山水画に漂う清浄、静寂な「気」に重ねている。人はそこに漂う「気」を五感以前の未分化な身体感覚をもって受け止める。気、気配といったものを視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚と分けられる以前の総合的感觉で捉えている。自然と人間との交感を可能にする感性とは自然を生命の総合的体系と捉え、自らもその一部であると実感できる感性ある。山水画も自然は大きく人は見えないくらい小さく描かれて示唆的である。近年の自然と我々の関係を思うとき、一層「身体と自然」、身体感覚に基づく自然観が求められている。

副題にある「身体と自然」とはそのことである。作ることは生きること。制作方法もおのずと自然＝土、漉き紙と身体がダイレクトに関わり合う。素材と身体が共振することで作品に「気」が発生する。そのプロセスを表す指跡は小手先でなく全身、身体に潜在する可能性のすべてをもって打付けられ、押上げられる。”

-星野 暁

この度、現代美術 艸居では星野暁個展「山水気―身体と自然」を開催致します。前衛陶芸家集団「走泥社」に属し、陶芸の分野からその作家人生を歩み始めた星野暁は、これまでも伝統的な手法にとらわれないオブジェ作品、インスタレーションを国内外で発表してきました。今展では陶の新作 23 点、漉き紙に泥入りの墨と指とで描かれた新作ドローイング 9 点、インスタレーション 3 点に加え、「春の雪」シリーズ 3 点を展示いたします。是非この機会にご高覧いただけますと幸いです。

星野暁は 1979 年の第 5 回日本陶芸展で文部大臣賞を受賞するなど黒陶の「表層・深層」シリーズで現代陶芸界の注目を集める存在となりました。その後陶だけでなくステンレスや金網を取り入れたインスタレーション作品「Temporary Style (仮の姿)」シリーズへと移行していきます。そんな中で 1986 年に大雨による山津波を経験したことは、作家にとって大きな転機となりました。

アトリエと多数の作品を失った星野は、土を単に造形を楽しむ為の素材ではなく共生共存していかなければならない自然の象徴として捉えるようになりました。人間も自然という総合的な体系の中で生きる存在だという実感は、土、ひいては自然とのより根源的な交感を可能にしたと言います。京都を離れ、琵琶湖の西岸、蓬萊山の麓に拠点を移しそれまでと全く異なる作品を生み出し始めます。

今展の新作に至るまで近年の星野作品に一貫して特徴的なのは、土の表面を指や手のひらで力強く押しつけた跡です。道具に頼ることなく土、紙という素材と生身の身体が無媒介に衝突します。自然の持つエネルギーと作家の感性が直接的に関わり合い共振することで、作品からは視覚からもたらされる情報を超えた「気」が漂います。自然と人間の関係のあり方のみならず、あらゆるものの根源に立ち返って世界を捉え直すきっかけを私たちに与えてくれることでしょう。



星野 暁（ほしの さとる）

1945年新潟県生まれ。大学卒業後、1974年から1980年にかけて前衛的陶芸家グループ「走泥社」に参加し活動。その後も精力的に制作を続け、1989年には拠点を京都から滋賀県に移す。伝統的な陶芸の技法や枠組にとらわれない作品を国内外で発表している。主な受賞歴には、1979年第5回日本陶芸展文部大臣賞、1980年第2回ジャパンエンバ美術コンクール優秀賞、1980年第4回京都彫刻選抜展京都府買上賞、1998年サントリー美術大賞展'98 佐治奨励賞などがある。

主なコレクションは、東京国立近代美術館工芸館（東京）、京都国立近代美術館（京都）、台北県立鶯歌陶瓷博物館（台湾）、ビクトリア&アルバート美術館（イギリス）、ファエンツァ国際陶磁博物館（イタリア）、オーストラリア国立美術館（オーストラリア）、ミネアポリス美術館（アメリカ）、ポートランド美術館（アメリカ）、エバーソン美術館（アメリカ）など多数。

また世界各地で講演会やワークショップを開催している。

是非、貴誌・貴社にてご紹介いただけますと幸甚に存じます。

掲載用、写真の貸出などご質問がございましたら下記までご連絡頂きますと幸いです。

プレス担当：元林久美子

〒605-0089 京都市東山区古門前通大和大路東入ル元町 381-2

motobayashi@gallery-sokyo.jp

Tel: 075-746-4456

Fax: 075-746-4457

www.gallery-sokyo.jp